

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	同志社女子大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ドウシヤジョシダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	近畿地方(大阪府を除く)
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	インターンシップ2(社会システム学科・富士山)
	学部・研究科等名	現代社会学部社会システム学科
	担当教職員名・役職	大西秀之・教授
要素①	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	17
	受入企業等数	3
	受入企業等名	富士宮市役所富士山世界遺産課静岡県庁富士山世界遺産課静岡県世界遺産センター整備課
	インターンシップの分類	10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本インターンシップの協力行政機関の指導の下、まずUNESCO世界文化遺産の構成要素である白糸の滝において、世界遺産「富士山」を中核とする景観の保護と活用を目的とした観光客の動向調査を実施した。また富士山観光の静岡県側の拠点である富士宮市では、インバウンド観光の実現に貢献しうるデータ収集のための観察や聞き取りなどを行うとともに、その成果の一環としてフォトブックを制作した。なお調査報告とフォトブックは、それぞれ富士宮市のwebサイトで公開した。
	要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。
2-2.該当するインターンシップの内容		2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)		
2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)		3年次以上
2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)		2単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)		学科科目「応用各論科目」の中の「キャリアデザイン科目群」の選択科目の1科目である。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	実習期間中担当教員が引率し受入行政機関と協力して指導に当たっている。

	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	現地に行く前に4回(8時間)を使って、世界遺産や富士山の基本的な知識、現地で行う調査方法の学習、行政機関と協力して行う企画の策定など、現地で活動するための準備学習を行っている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	現地での活動の終了後4回(8時間)を使って、世界遺産の構成要素で行った観光客の動向調査のデータ整理を行い、その結果を行政機関や一般社会に公開するための報告書の作成を行っている。またフォトブックなどの成果物のwebサイトでの公開なども併せて行っている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ終了後にアンケートを実施し問題の所在や課題の把握と明確化に活用した。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している 2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している 3.複数の企業等においてインターンシップを実施することにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	5日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	7日間
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	7日間
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前指導1日、実習期間5日、事後指導1日
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	現地実習前に行政機関から要望を聞き、その上で実習内容を企画している。また現地実習の際にも、調査活動の前にレクチャーを受け、最終的な活動内容の確認や修正を行っている。また実習の最終日には、一般市民にも公開する報告会を開催し、行政機関の関係者に聴講をしていただき意見や感想などのコメントを求めている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://kyomu-web.dwc.doshisha.ac.jp/cam3/slbsbdr.do?value(risyunen)=2017&value(semekikn)=1&value(kougicd)=421306&value(crclumcd)=
問い合わせ先	大学等名	同志社女子大学
	担当部署名	現代社会学部事務室
	担当者役職名	
	担当者氏名	
	電話番号	0774-65-8543
	メールアドレス	gensha-t@dwc.doshisha.ac.jp